

鈴鹿俊子 すいが 歌人。明治四十一年京都生れ（一九〇九）。本姓川田。短歌を岡本大無、川田順之助ら。経済學者中川與之助と結婚し、戦後師の川田と戀愛の末家を出、世に「老いらくの戀」事件として喧傳せられた。

著書『宿命の愛』（昭和二十四年十月五日實業之日本社）、歌集『蟲』（昭和二十一年五月）『女のこころ』（昭和二十九年）二月十五日春秋社）、『女性の愛の歌』『萬葉集』『みだれ髪』『杜』、『隨筆』『死と愛と』（昭和四十五年）二月二十五日読売新聞社）、『寒梅未朗』（昭和五十年一月五日新星書房）、『鈴鹿俊子歌集』（素香集）『その後』（昭和六十二年）二月二十五日云風書院『日本現代歌人叢書』）等。

文獻、川田順著『孤愁録』（昭和二十四年二月一日朝日新聞社）、中川與之助著『昔は懐かしく魂の記』（昭和二十四年二月十五日山口書店）等。

